

# 京都の「文化の殿堂」 京都会館の再整備を行います



ぜひ、ご意見をおよせください

— 京都会館再整備に関するパブリックコメント —

平成23年1月

京都市



## 京都の文化の殿堂 京都会館の再整備について

京都会館は昭和35年4月に市民の皆様の大きな期待を受け、わが国の公共文化ホールの先駆けとして、岡崎の地に誕生しました。

当時の京都市の財政は大変きびしい状況にあったにもかかわらず、文化観光施設税収のほか、市民の皆様や多くの企業からの寄付金を財源に建設することができました。

開館後は京都の文化の殿堂として、市民の皆様はもとより国内外の著名なアーティストにまではびろく親しまれています。

しかしながら、開館後50年が経過し、これまで部分的な改修は行ってきたものの、現行の耐震基準やバリアフリー基準などに適合しておらず、また、各設備や舞台機能を含めた施設全体に老朽化が進み、舞台空間が広さ高さともに狭小なことから、近年の施設利用者や来場者の利用ニーズにこたえきれていない状況にあります。

このような状況を放置しておく、建物がますます老朽化し、京都会館の文化ホールとしての役割を果たすことがむずかしい状況になってしまいます。50年前に市民の皆様や多くの企業の熱意を受けて建てられた京都会館への思いを大切に、今後さらに50年間にわたって日本を代表する文化の殿堂としてよみがえらせるためには、老朽・劣化した箇所の改修以外にも、現状の舞台面積の拡大や、屋根形状を変更して舞台の高さをあげるなど、現代のニーズに合わせた大規模で思い切った改修が必要です。

こういった状況に直面し、京都市では京都会館の再整備に向けた取り組みを進めています。

なお、京都会館のある岡崎地域についても、地域活性化に向けて、「優れた都市景観・環境の将来への保全継承」、「世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能強化」、「更なる賑わいの創出」を図る観点から庁内外の多くの関係者が知恵を出し合い検討を進めております。この岡崎地域活性化についても、別途、市民意見を募集しており、京都会館の再整備はこの中心的役割となることが期待されています。

市民の皆様のお愛着も強く、日本を代表するモダニズム建築でもある現施設を今日の利用ニーズに適合する形に改修を行い、これまでの50年間にわたる皆様の思い出を未来に引き継ぎ、さらに50年間ホールとしての使命を果たしていけるよう、京都会館再整備に関する考え方をまとめたものです。

# 1 京都会館の再整備に向けた課題

## (1) 建物全体に共通する主な課題

- ア 構造躯体部分のコンクリートの状態は比較的良好であるが、建物全体として現行の耐震基準には不適合であるため、必要な補強を行い、建物の長寿命化を図る必要がある。
- イ 各ホールの座席、内部の床仕上げ<sup>ゆか</sup>、防水及び外壁仕上げといった箇所や舞台、音響、照明等各種設備部分などについて、建物全体で老朽化・劣化が著しい。また、全体的にトイレが古く、数も不足している。
- ウ 開演前、休憩中、終演後に飲食ができるような場所（喫茶スペース、軽食コーナー等）や、コインロッカー等の利便施設が不足している。
- エ 楽屋まわりについて、楽屋数が少なく、内装や設備の老朽化が著しい。また、通路幅が狭いほか、各楽屋の遮音性能が悪く、隣室からの音がもれる。
- オ 公演資材の搬入の際、第1ホールの搬入口の位置が歩道に面しており、搬入車両の駐車スペースも狭く、屋根もないことや搬入用のリフトも小さいため、搬入効率が悪く、雨天時や長い物の搬入にも支障がある。
- カ バリアフリーに関連して、第2ホールの2階席や会議棟の上階までバリアフリーで到達できないこと。

## (2) 第1ホールに関する主な課題

- ア 舞台の奥行寸法が不足しており、奥に綱元<sup>つなもと</sup>(※1)があるため、舞台を有効に使えない。また、奥に行くほど狭くなっている構造から舞台間口と同じ幅の背景の設置ができない。
- イ 舞台の高さが不足しており、舞台上部を有効に使えない。
- ウ つり物数<sup>(※2)</sup>が少ない及びつり物を設置できる上部スペースも不十分であるため、舞台転換に時間がかかるなど、演出に制約が生じている。

## (3) 第2ホールに関する主な課題

- ア 上手側の舞台そで<sup>(※3)</sup>の上部の高さが不足しており、舞台装置の引込み転換ができず、演出上の制約が生じている。
- イ つり物数が少ないことから、舞台転換に時間がかかるなど演出に制約が生じている。
- ウ 音響反射板の機構が古いため、調整・設置に時間がかかる。

## (4) 会議棟に関する主な課題

設備を含め、各部において老朽化しているため、現在の利用ニーズにこたえきれていない。

---

(※1) 舞台上部に設置されている緞帳（どんちょう）や照明等を人力で昇降させるための場所。通常は舞台の左右端に設置されていることが多い。

(※2) 舞台上部に設置されている美術舞台のセット、幕類、看板等の総称

(※3) 客席側から舞台を見て右側を上手（かみて）、左側を下手（しもて）という。舞台の幕切れから左右の場所を袖（そで）という。

## 2 再整備に関する考え方について

### (1) 京都会館のあるべき姿

市民に愛され、交流の場となるホール

- ・ 50年の歴史と愛着を受けつぎ、今後とも市民の皆様の様々な文化活動が繰り広げられ、人生の節目におけるハレ舞台となる公共ホール
- ・ 本物の舞台芸術に触れる機会の提供により、子どもたちをはじめ市民の皆様に感動を与え、文化芸術を通じた豊かな人格形成の契機となるホール
- ・ 様々な形で市民の皆様が参画交流できる場として、文化芸術や京都への愛着を育むホール

質の高い舞台芸術や、新たな文化創造の場として世界文化都市・京都を発信する「文化の殿堂」

- ・ 質の高い多彩な舞台芸術の観賞機会を提供することで、様々な文化的活動を誘発させる拠点
- ・ 市民の皆様とアーティスト、アーティスト同士が相互に交流連携し、文化活動を発展させ、京都から世界にはばたくアーティストの登竜門となりうる拠点
- ・ 伝統と前衛がまじり合い、京都ならではの新たな文化芸術を創造する拠点

21世紀京都の新たな活力を創出する岡崎地域活性化の中心

- ・ 岡崎地域に立地する様々な施設や周辺地域と連携し、文化交流ゾーンとしての岡崎地域の新たな魅力を創造・発信する施設
- ・ 東山に抱かれた風光明媚な環境や、景観と調和した岡崎地域にふさわしい新たなにぎわいを創出する施設
- ・ 市民の皆様、企業等の民間活力の導入や、適切なマネジメントを実現し、産業やコンベンションなど多面的に活用される施設

## (2) 具体的整備の考え方について

### ア 建物全体

- (ア) 岡崎地域の優れた景観を形成し、近代建築として全国的に評価の高い現在の建物を可能な限り生かしつつ、現代的なニーズに適合させる。
- (イ) 現行の耐震基準に適合させることをはじめ、大規模な整備を行い、公共建築として安心・安全な状態にするとともに、建物の長寿命化を図る。
- (ウ) 建物各部の老朽・劣化箇所を修繕するとともに、舞台、音響、照明など老朽化した各設備機器を更新する。
- (エ) エレベータを増設するなど、建物をバリアフリーとする。
- (オ) トイレの改修や増設をはじめとした来館者のアメニティ機能を向上させる。

### イ 第1ホール

- (ア) 従来約2,000人収容を維持しつつ、快適な客席に再生する。
- (イ) 世界的に著名なオペラやバレエの劇団の巡回公演、セットが大型化しているポップス音楽コンサート等の開催が可能になる舞台とする。
- (ウ) 演出の幅を広げることが可能とするため、舞台を客席側や、疏水側に拡張すること等で舞台面積を拡大すること及びつり物機構をはじめとした舞台機能を大幅に改善させ、舞台の上部空間を拡大することの検討を行う。
- (エ) 搬入口の位置や大きさ及び搬入リフトを改善し、搬入作業の効率化を図る。

### ウ 第2ホール

- (ア) 座席シートを取り替え、現在よりもゆったりとした快適な客席とする。
- (イ) 演出の幅を広げることが可能とするため、つり物機構をはじめとした舞台機能を改善するとともに、舞台の上部空間の拡大を検討する。

### エ 会議棟

- (ア) 1階部分は観劇等で来館された方だけでなく、岡崎地域を訪れた方々が利用できるにぎわい施設として飲食施設等の導入を検討する。
- (イ) 2階の会議場部分を演劇に使用できる小ホールや各種催物を開催できるスペースとして整備することを検討する。
- (ウ) 各会議室については小ホール利用者が多目的に使える諸室として整備することを検討する。

### オ 中庭及び二条通沿い

- (ア) 会議棟に導入予定のにぎわい施設と一体感を持たせ、二条通から連続したにぎわい空間としての活用を図る。
- (イ) 中庭に隣接する東側の公園との連続した憩いの場としての機能を持たせ、屋外でのイベントにも対応可能な空間として活用することを検討する。

## (3) 京都会館再整備の今後の予定

平成22年度に基本計画を策定し、平成23年度以降に設計等を進め、早期のリニューアルオープンを目指します。

### 3 再整備に関するイメージ

#### ○ 外観整備イメージ

屋根形状の変更により舞台高さを確保することや  
疏水側に舞台の面積を拡大することで、様々な舞  
台芸術の公演が可能なホ  
ールとなることを目指し  
ます。



#### ○ 二条通沿いイメージ

京都会館だけでなく、岡  
崎地域を訪れた方が憩え  
るにぎわい施設を設置



#### ○ 中庭整備イメージ

二条通から連続するにぎ  
わい空間として、また、  
隣接する岡崎公園と連続  
する機能を持たせ、屋外  
でのイベントにも対応が  
できるように検討しま  
す。



